



## キャッシュレス時報 CASHLESS JIHO

長内 智

(株)大和総研  
金融調査部  
主任研究員

### 第8回 現金が消えていく国スウェーデン



#### 国民の「現金離れ」が進展

##### ●現金を使えない店舗と銀行支店が増加

スウェーデンは、世界でも有数のキャッシュレス先進国として知られています。

バスや鉄道などの公共交通機関で現金が利用できないほか、消費者が現金で支払えない「現金お断り」の店舗が徐々に増加しています。

また、銀行のATMと支店の数が非常に少なく、現金を取り扱わない銀行の支店も増えています。日本では、銀行・郵便局のATMや支店、コンビニのATMを探せば、そう遠くない場所に見つけられます。しかし、スウェーデンでは、銀行がキャッシュレス化やコスト削減のためにATMと支店の削減を進めた結果、現金の入出金が不便な状況となっています。

こうした中、スウェーデン国民の間で「現金離れ」の動きが広がっています。リクスバンク（中央銀行）の2020年の調査によると、過去30日間に現金を使った人は50%であり、すでに国民の半数が普段の支払で現金を利用ていません。直近の店舗での支払手段として「現金を利用した」と回答した人は、わずか9%にとどまります。

スウェーデンでは、キャッシュレス化の進展に伴い、現金や財布を持ち歩かなくなった人が増えています。国際的に「現金大国」といわれ、国民が日常的に現金を使っている日本とは、別世界のような状況にあるといえます。

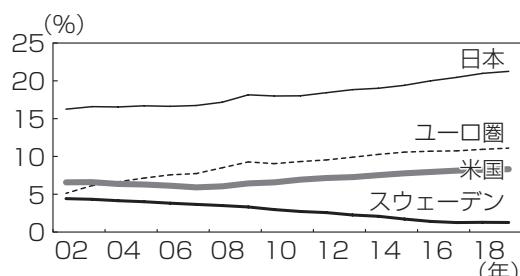
##### ●諸外国に比べて低水準の現金流通高

キャッシュレス化の進展度合いを示す指標の1つとして、経済規模に対して現金がどの程度流通しているかを示す「現金流通高対名目GDP比」があります（図表参照）。

その長期推移を確認すると、日本・米国・ユーロ圏は、現金流通高の増加に伴い2008年頃から緩やかに上昇しています。この主な要因として、超低金利環境下で預金に利子がほとんど付かない中、国民の現金保有（タンス預金）が増えたことが挙げられます。

スウェーデンも金利が非常に低いという状況は全く同じですが、同比率は長期的に低下し、かなり低い水準にあります。これは、キャッシュレス化の進展に伴い現金の入出金が不便になった結果、現金をできる限り持たず、お金を預金に置いておく人が増えたことなどによります。まさに、近年、現金が徐々に消えていくような状況にあったといえるでしょう。

##### 【図表】現金流通高対名目GDP比



（出所）国際決済銀行（BIS）より大和総研作成



## 急速なキャッシュレス化の背景

### ●日本で意識されない現金強盗対策

それでは、なぜスウェーデンにおいてキャッシュレス化が急速に進展したのでしょうか。その主な背景として、以下の点が挙げられます。

まず、スウェーデンは、人口当たりの国土面積が広く、冬の気候が非常に厳しいこともあります。諸外国に比べて現金の輸送・管理コストがかかります。こうした中、国や企業、銀行が協力して、現金を可能な限り取り扱わない社会環境の整備を進めてきました。

また、1990年代初頭に発生した深刻な金融危機を契機に、銀行が収益性改善のためにATMや支店の削減といった金融インフラ面の効率化を長期的に進めてきたことも、キャッシュレス化の追い風となりました。

さらに、現金強盗対策という面も重視されています。公共交通機関や店舗、銀行の支店で現金を取り扱うことにより、防犯効果が高まるというわけです。これは、世界的に「治安のよい国」とされる日本では、あまり意識されない視点だと思われます。実際、スウェーデンでは、完全キャッシュレス化の店舗や銀行の支店が増加したことにより、現金強盗の発生件数が大幅に減少するという効果が現れました。

### ●1枚のカードで便利なキャッシュレス

日本には、キャッシュレス決済の種類が非常に多くあるため、「どの決済手段を利用すべきか」が悩ましい問題となっています。

他方、スウェーデンなど北欧諸国のかつては、利用しているメインバンクが発行するデビットカードを利用することが一般的です。最近は、非接触型（コンタクトレス）のカードが普及しつつあります。

カード1枚で悩まず簡単に使い始められるため、初めはキャッシュレス決済に抵抗があった人もすぐに現金より便利な決済方法として受け入れ、そのまま使い続けているのです。

## 「Swish（スウィッシュ）する」とは？

### ●国民的なモバイル送金アプリ

スウェーデンでは、個人間の送金を行う際、ほとんどの人が「Swish」というスマホアプリを利用します。これは、2012年にスウェーデン国内の大手銀行が連携して開発したものです。

現在、人口約1,000万人のスウェーデンにおいて約770万人が利用（2020年10月時点）しております、モバイル送金分野で圧倒的なシェアを占めるスマホアプリとなっています。

個人間送金サービスを無料で利用できることに加え、送金の際に相手の銀行口座番号は必要なく、携帯電話番号のみでよいという利便性の高さが支持され、利用者が急速に増加しました。また、操作方法がシンプルで送金を簡単かつ迅速に行えることから、幅広い年齢層で利用され、高齢者の利用も徐々に増えています。

セキュリティ面については、スウェーデンの銀行共通IDである「BankID」を用いた個人認証により安全性を確保しています。

### ●お小遣いも教会の寄附も

Swishの普及に伴い、スウェーデンでは、子どものお小遣いを現金ではなく、Swishで送金するケースが増えています。筆者が2019年秋にスウェーデンを訪問した際、現地の面談者が言うには、スマホを日常的に使用している子どもにとって現金の利用はむしろ不便であり、さらに現金は「クールでない（かっこよくない）」とみられているとのことでした。

スウェーデンには、Swishによる寄附を受ける教会もあります。教会内に寄附用のSwishの番号が表示されており、Swishのアプリを通じて簡単に寄附することが可能です。また、街の店舗やネット通販の支払でもSwishに対応するところが少しずつ増えています。

このようにSwishが国民に広く普及した結果、スウェーデンでは多くの人が、スマホで送金することを「Swishする」と言うようになっています。